

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立和邇小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

理科の三領域（エネルギー、生命、地球）では、全国の状況と比較しても非常に良い結果でした。しかし、基礎基本（国語A・算数A）の定着に課題が見られます。特に、算数においては、大きな課題が見られました。これは、「算数への関心」が低いことと関連があるように思われます。

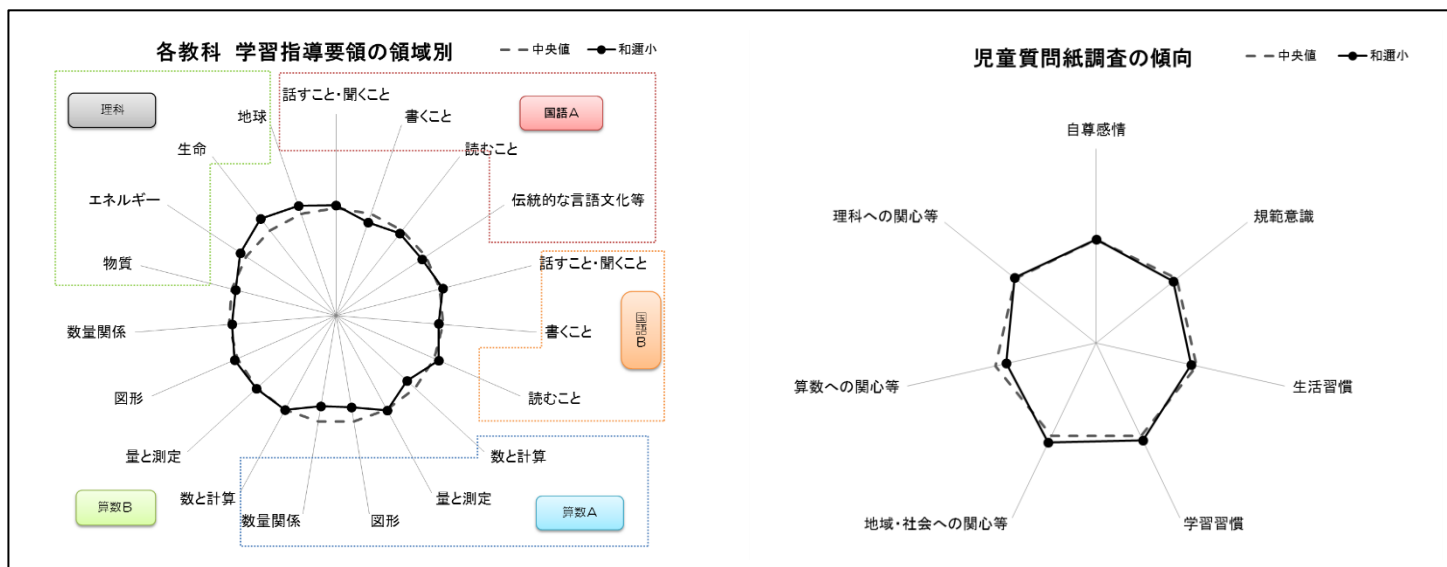
また、「地域・社会への関心等」「学習習慣」が高い結果となりました。その反面、「生活習慣」や「規範意識」にやや低い傾向が見られました。

《強み・弱み》

本校では、校内研究のテーマである「一人ひとりの考えをつなぎながら伝え合う」授業実践に努めています。その結果、国語科においては、相手や目的に応じ「話すこと・聞くこと」に強みがあります。しかし、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして「書くこと」に弱みが見られます。算数科では、「量と測定」領域に強みが見られますが、グラフの特徴を読み取り「数量関係」を考察することに弱みが見られます。

児童質問紙からは、「地域・社会への関心」意識が高いことがわかります。これは、地域に開かれた学校作りを進める本校にとって、非常に心強い結果です。この意識の高さを継続できるように、今後とも家庭や地域と連携を深めながら教育活動を進めていきたいです。

◇強み・弱みレーダーチャート◇ ※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

○主体的・対話的で深い学びを充実させるために、授業改善に努めます。

- 1) 書く条件（テーマや文字数等）を決め、自分の思いや考えをまとめたり、他者（物）と比較したりしながら整理して書くことができるよう指導します。また、主語と述語の関係に注意しながら丁寧に読み返していく習慣をつけるようにします。
- 2) 算数科は、単に計算を目的としてのみ扱われるのものではなく、体験的な活動や操作を通じた学習を多く取り入れて学習意欲の向上をめざします。また、算数科だけでなく日常生活の中でも表やグラフに触れる機会を多く作り、特徴や変化の様子に気づくことができるよう指導します。
- 3) 科学実験を行う際、結果だけを求めて終わりではなく、その結果を的確に解釈（考察）するために進んで科学用語を用いた説明ができるよう知識を身につけることができるようにします。
- 4) 話し合い活動には、自分の考えを持って臨み、事例等をあげながら筋道を立てて話すように指導します。また、相手の立場や意見を尊重し、しっかりと受け止めることができるようにします。

○開かれた学校作りを推進するために、ゲストティーチャーの方々の支援を受けたり、「ふれあい教室」等での交流を深めたりしたことを発信していきます。また、これらの活動を通して、将来の和邇を担う人材を育てていきます。